

桜祭号
(第五号)



安心とするおのの町「川の手」をめぐって

防災 まちづくりの豆版

昭和6年4月1日

発行ノ寺言問の防災まちづくりを考へるわいわい会

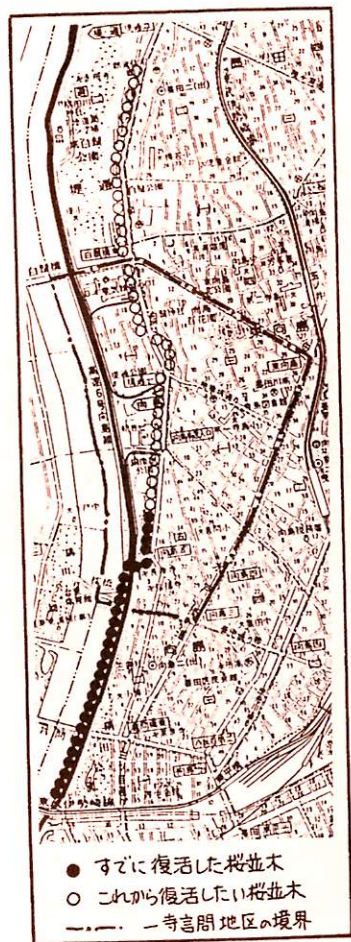
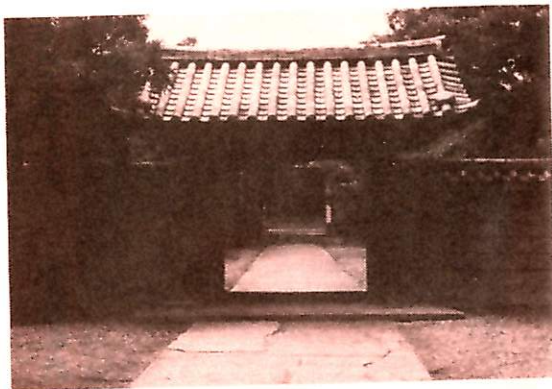
なます君の要石探し

その3 「来て見て寺言問」

由願をやり見せどがでまの花園
は園の中野分勝 向原花園



七福神をはじめ、一寺言問にはお寺と神社がいっぱい。 蓮華寺



墨堤の桜並木を復活したい、せめて木母寺までの江戸時代の並木を復活したい、そうすれば現在の約二倍、なんと三倍に及び桜並木が実現します。

「承知のように、墨堤一帯は江戸随一の名所でした。幕末には、上野の山や孫鳥山よりも名所でした。何が魅力だったのでしょうか。福田川、七福神、料亭、並木で続く桜のトンネル。これらに加えて、桜並木を市民がつくり、育てた」ということも大きな魅力だったのではないのでしょうか。

墨堤の桜は将軍吉宗が幕府の政策をつくりましたが、名所になる以前はだいたい老成してました。それを名所にしたのは、なんと市民でした。市民が桜を植え、管理して、並木をつくり育ててきたのです。つまり、市民参加のまちづくりで桜並木がつくり続けられたのです。

向原花園を聞いた佐原菊雄が呼びかけて、江戸の文化人たちが桜を奇進して植樹したのが始まりです。明治には「櫻樹進」とか「華樹進」という名前が動進隊を冠して市民の募金が集められました。このうち最も大々的におこなわれたのが、明治中期のこと。一寺言問在住の成島柳北、大倉喜八郎らが総起人になり、市民の手で千住大橋まで続く桜並木をつくられたのです。

丸達もこうした桜並木づくりの歴史を受け継いで、市民参加で桜を復活させたいと思います。この並木が完成すると、大地震時には白粉屋、防災拠点まで完全に避難できる火除けの道にもなります。丸達、一寺言問の防災まちづくりを考へる「わいわい会」として、このまちを災害に強いまちにしてゆかためにも、この桜並木を是非実現したい、と思っております。

